

CONTENTS

- 第9回G・M賞 受賞者決まる(2面)
- 滝井高バレー、フェンシングが 全国大会へ(5面)
- 国際大卒業生が就職奮戦記(6面)

GLOBAL MIND

グローバルマインド

発行/(学)大阪国際学園広報室
〒570守口市藤田町6-21-57
06(902)0787(代) FAX06(902)8961

GLOBAL MIND IS THE SPIRIT OF OSAKA INTERNATIONAL EDUCATIONAL INSTITUTION

大阪国際大学(OIU) 大阪国際女子大学(OIUW) 大阪国際女子短期大学(OICW)
大阪国際滝井高等学校(OITH) 大阪国際大和田高等学校(OIOH)
大阪国際大和田中学校(OIOJ) 大阪国際大和田幼稚園(OIOK)

編集手帳

▽古美術の真贋論 争は、古今東西枚 挙にいとまがなく、 また絶えることも ない。近年では佐伯 祐三作品をめぐってかしまし かったのが、記憶に新しい。いっ 真贋論争が真に気がかりなのは、 美術館関係者やコレクターだろ うが▽社寺境内などでのガラク タ市が盛ん。外国人が目立つよ うになつて久しいが、若い女性も ふえて、「掘り出し物」を漁る 姿はほほえましい。ただし、せい ぜい実用の絵画などに限り、時 代のある茶碗や壺となれば真贋 を見極めねばならず、これがむ ずかしい▽ホンモノ、ニセモノの鑑 定に必要なのは「複眼の視点」と 「柔軟な観察」▽古陶磁学者・ 出川直樹)だという。情報過多 社会に生きるわれわれにとつても、 切に求められる姿勢だろう。

大阪国際大(OIU)がガンと都心に近づいた



大阪国際大の南口、JR長尾駅。待合の東西線開通で通学は都心からの利便が向上した。

輸送サービスの向上で 通学・通勤が便利に

JR東西線の開通(3・8)で 宝塚・神戸線と学研都市線がつながる

JR東西線が3月8日、開通した。平成元年3月の着工以来、実に8年を費やして大阪都心に貫通。これによってJR宝塚線・神戸線と学研都市線が直結したほか、地下鉄各線や私鉄との連絡も緊密になった。学研都市線長尾駅が玄関口の大阪国際大学(OIU)にとつて、東西線開通は開学(着工前年の昭和63年)以来の待望の実現。同時に電車増発などのダイヤ改正で、大阪都心部からみて郊外に位置する同大学は都心にグンと近づいたほか、宝塚線や神戸線と通学・通勤の利便も飛躍的に向上した。

東西線は、学研都市線京橋駅と宝塚線・神戸線の尼崎駅間(12.3キロ)を大半地下で結び、すべて地下の▽大阪城北詰▽大阪天満宮▽北新地▽新福島▽海老江▽御幣島▽加島の各駅が新設された。

京橋―尼崎駅間を16分で結ぶとともに学研都市線と宝塚線・神戸線を都心部で相互直通運転。さらに東西線によって、谷町線や堺筋線、御堂筋線など多くの市営地下鉄、また阪神本線など私鉄との乗り換えもできるようになった。さらに、大幅ダイヤ改正で学研都市線も輸送力が向上した。

未来を見つめ、旅立ちの季節

総勢2486名が巣立つ

大阪国際学園

未来を見つめ、旅立ちの季節 3月。大阪国際学園の各学校で2、3月に卒業式が次々に開催された。別れの寂しさの中にも新たな希望に胸をふくらませて、学生・生徒・園児のあわせて2486名が巣立っていった。

国際大の卒業証書・学位記授与式は3月25日、大講義室で学部別に行われた。大学院経営情報学研究科経営情報学専攻15名、経営情報学部2

スライドで学園生活振り返る (女子大・短大)

(国際ビジネス) スコース206、

ついで後輩達と記念写真を撮ったり、学生生活を共にした友人たちや恩師との思い出話をしたりといった光景があらわに、こちらでくり広げられた。また、2月1日には留学生別科生修了式が行われ、4名に単位認定証が授与された。

一方、女子大では3月17日、奥田メモリアルホールで卒業証書・学位記授与式が行われた。コミニケーション学科99名、人間健康科学科48名の計147名が、人づつ壇上に上がり、証書学位記を受け取り、それぞれ新たなスタートを切った。

翌3月18日は、短大の卒業証書授与式。家政科266名、栄養士コース39、生活文化コース

女子大 今春から10学部へ 国際コミュニケーション・コミュニケーション・スポーツ行動学専攻

大阪国際女子大学が平成9年4月からの開設を目指して設置認可を申請していた▽国際コミュニケーション学科(入学定員20名)▽スポーツ行動学科(同100名)に対し、12月19日付で正式認可を得た。

これによって女子大は、既設の▽コミュニケーション学科(入学定員80名)と▽人間健康科学科(同80名)との4学科になり、人間科学部はコミュニケーション学科とスポーツ・健康科学の体系が整備・充実されることになった。一方、短

大の英語科は募集停止し▽家政科▽幼児教育科▽国際文化学科に縮小する。

小規模だった女子大の改革は長年の課題だったが果たせず、今回の改革で収容定員数では短大を上回り、女子大主体の女子大

短大が実現、本学が提唱する「女性の優位性」を強調した教育が可能になったほか、学内全般の活性化に結びつくものと期待される。

また、3月15日には大和田幼稚園で保育修了式が行われ、52名の園児たちが成長を祝福され巣立っていった。

府南部に住む木津方面からの通学生には普通電車も増発されてうれしい。デパートの快速・普通も増発され、都心と本学のキヨリが近くなったのはたしか。

本学学生約2,500人のうち、長尾駅利用者約1,500人。東西線開通で直接恩恵を受ける学生は多い。兵庫伊丹市から通うラクロス部所属の吉田幸平さん(経情3年次生)もその一人。宝塚線伊丹駅から大阪環状線、そして学研都市線に乗り継いで通学していたが、東西線開通による一本化でさくそく利用。「宝塚線、学研都市線とも本数が増えたほか、乗り換えがなくなつて待ち時間のイライラもなくなりました。実際の通学時間短縮以上に気分的には楽になった」と上機嫌。大学にとつても、開学時から東西線早期実現や学研都市線の輸送力増強を要望してきただけに、大歓迎。

その一方で、新たな課題も深刻化しそう。長尾駅と大学間は徒歩約15分。駅を出た通学生らは府道交野・久御山線から信号を

左折し、すぐの踏切を渡つて大学へ。ところが踏切遮断機の閉鎖時間が従来からもなく滞りがひどかった。そこで昨年、改めて地域の自治会等とともに渋滞解消策や駅反対側の改札口設置、駅前広場新設等を地元枚方市やJR西日本に要望した。ダイヤ改正によって踏切周辺での混雑に拍車がかかつており、関係機関への改善要望は一層強まりそう。そのなかで、枚方市が平成9年度予算で駅前整備の調査費を計上したのは朗報。

第9回グローバルマインド賞決まる

グランプリ賞に川岸弘実さん(福井高)

NGOの体験 「マッチ売りの少女達へ」

第9回を迎えた「グローバルマインド賞」(大阪国際学園・毎日新聞社共催)は先の学報(第13号)で報じたように958編の応募作品があり、前回の376編を2倍強も上回る数字となった。

3度の学内審査を経た10編の作品が12月11日、梅棹忠夫氏(国立民族学博物館顧問)、大島靖氏(大阪国際交流センター会長)、岡本道雄氏(国際高等研究所理事長)、森毅氏(京都大学名誉教授)の先生方による最終審査が行われた。

まず審査委員の目をひいたのは、川岸弘実さんの「マッチ売りの少女達へ」。川岸さんはNGO(非政府機関)のひとつ「シャプラーニ」の研修旅行先のパングラデシュで、恵みを求めて手を出す子供たちに囲まれた時



グローバルマインド賞審査風景(右から森毅氏、大島靖氏、岡本道雄氏、梅棹忠夫氏)

に受けた感情を基に、本当の国際交流のあり方を考察。「その手に簡単にお金を乗せてあげたとして、彼らは本当に幸せになれたのだろうか」と安易な施しに疑問を抱いた事や、別のNGOが主催したハンガーパーンケツ

ト(飢餓の宴)で体験した発展途上国の食生活の体験を重ね合わせ「援助として必要な事は、最終的に援助される国が他国から援助が不要になり、経済的に『離陸』すること。技術協力と、その国の将来を担って行くであろう人材を育成するもの」と説いた。

次いで神山織江さんの「タイからの贈り物」では、タイ北部

【グランプリ】

川岸 弘実(福井県立藤島高等学校1年)

「マッチ売りの少女達へ」

【準グランプリ】

神山 織江(栃木県立宇都宮女子高等学校2年)

「タイからの贈り物」

【毎日新聞社賞】

有馬さや香(福岡県立門司高等学校2年)

「笑顔を通じて」

【佳作】

富田 真弓(京都私立立命館高等学校3年)

「集団主義の日本人」

藤原 彩(神奈川県立横浜学院女子高等学校2年)

「肌の色って何なのだろう」

橋本 雅江(大阪私立大阪国際大和田高等学校3年)

「私の夢」

田中 幸恵(静岡私立浜松海の星高等学校2年)

「世界人になりたい」

中間華奈子(鹿児島私立川内純心女子高等学校3年)

「心と心の交流を大切に」

平沼依里子(愛知私立津島女子高等学校3年)

「コスモポリタンとして生きる」

長谷川景子(福井県立藤島高等学校2年)

「国境」

【学校賞】

神奈川私立横浜学院女子高等学校

で見た焼き畑を切り口に、先進国特有であろうと思っていた環境破壊が、実は開発途上国の方が深刻であり、その原因となっているのが、現在の私たちの快適な生活である事にショックを受けた。

ハーバークレジット(高田健三)

100余年の歴史誇り各界に著名人

大阪国際滝井高等学校

カナダ・トロント市北部の高級住宅街の中心に、22エーカーに及ぶ校地とツタのからんで歴史を感じさせる美しい校舎を持つハーバークレジットは、高いレベルの女子中等教育を指して1894年に創立された私立女子学校です。この学校と大阪国際



自由で伸び伸びした校風、充実した教育設備が整う名門ハーバークレジット

高等部の正規カリキュラムには、英・仏語、歴史、地理、数学、理科、体育の他にスペイン語、ドイツ語、ラテン語、物理、化学、生物、政治、経済、演劇、コンピュータなどが選択科目として用意され、また課外活動として、スポーツ系、文化系、芸術系、オーケストラ、出版部等、豊富な受け皿が用意されています。平均20人前後の少人数クラス、伝統的なハイ・レベルの授業により、カナダ国内(トロント大学へは、奨学金付きで毎年10数人の生徒が進学)のみならずアメリカ、イギリスの有名大学へ多数の生徒を進学させています。また、同校からは医師、弁護士、実業家、芸術家など著名人が多数輩出しています。中等部は、カナダ国内における数学コンテストにおいて過去10年間、上位を占め続けています。

本校からは提携以来4年間に延べ11名の生徒が、ハーバークレジットからは同様に延べ10名が互いの学校へ6週間短期留学して相互理解と親善を深めています。が、訪加した生徒からは、自由で伸び伸びした校風、充実した教育設備、授業中の生徒の活発な学習態度、家庭学習の長さなど真剣さについて全員が感銘を受けたと述べています。また、同校生徒宅で家族の一員としてお世話になったホストファミリーの暖かい心配りと歓迎に対して、大変感謝していました。

幼稚園から小学部、中・高等学部までの一貫教育が原則で、

なく、心の豊かさが大切であると痛感。ボランティアの意味を履き違えていた自分に気づき、「少しでもあなたの国の力になりたい」という心を持ち続けていきたいと語っている。

この3作品に対し、審査委員からは「国際協力は、単にお金の援助だけでなく、その国の人たちが自立できるように支援していくこと」という国際協力の本質をよくつかんでおり、論点もしっかりしている」として川岸さんの作品にグランプリ賞が、そして「環境問題に視点を置き、国際協力へ発展させた作品は本コンクールでは初めて」という点

が評価された神山さんに準グランプリ賞が、有馬さんには毎日新聞社賞がそれぞれ選ばれた。その他7作品についても、上位3作品とはほとんど遜色なく、審査委員の間で意見も分かれたが、紙一重の差で佳作にとどまった。また、学校賞には応募数が77編、佳作入賞1名、第3次審査通過1名の神奈川県立横浜学院女子高等学校が満場一致で選ばれた。

この結果を基に12月21日に毎日新聞全国版の紙面にて受賞者発表、さらに29日には上位3作品の全文と要旨を同紙上で紹介し、1月中旬より受賞者への入選

の伝達および表彰のため、各高等学校への訪問が相次いだ。グランプリを受賞した川岸さんの母校福井県立藤島高等学校では、吉野教頭らの立ち会いで表彰状・楯・副賞を手渡した。川岸さんは「将来は国際弁護士を目指したい。青年海外協力隊に参加して、発展途上国の自立の手助けをしたい」と新たな目標に目を輝かせていた。

川岸さんの受賞作品「マッチ売りの少女達へ」を含む入選10作品は、応募者一覧とともに小冊子にまとめ、参加賞と共に3月上旬応募者・応募高等学校に送付された。

留学生レポート

オーストラリアで過ごして

大阪国際大和田高校3年 諏訪 沙織

私が行ったオーストラリアのジーロン・グラマースクールは、留学生の受け入れが多く、そのせいか大和田高校からの短期留学生が増えるぐらいだったことはないという感じでした。日本の学校がするような歓迎パーティーや、私達だけの特別なスケジュールもありませんでした。

3人も別々の寮に入り、学校のきまりも寮のきまりも分からないまま、オーストラリアでの生活がはじまりました。次の日から早速、ホストチューデントのクラスに入って授業を受けました。と言っても、授業どころか英語も理解できず、分からない事だらけですぐホームシックにかかりました。でも、だんだん友達もでき、分からない事はどんどん聞くようになりました。

もともとその学校に通っている日本人の人も何人かいて、友達になり色々教えてもらいました。でも絶対向こうから色々教えてくれるということではなく、自分で話しかけないと友達はできなかったと思います。最初は冷たいとも思いましたが、本当はそうではなく、そういう風に接してくれたので、私も色々学べたと思います。寮生活最後の日、寮生の寄せ書きをしたくまのぬいぐるみくれました。そこでもオーストラリアの温かさを感じられ、1ヵ月間本当にいい経験ができたと思います。

(96年3月9日から4月6日までオーストラリアのジーロン・グラマースクールへ派遣)

日本に来て感じたこと

大阪国際女子大学 外国人特別科目等履修生 金 春子(チン チュンツ)

昨年の9月から科目等履修生として大阪国際女子大学で1年間勉強することになりました。この数ヵ月間の体験で、テレビ、書物などで見てきたのと、実際にこの足で行き、この目で見、音、流れ、空気、匂いを身体全身で感じ、味わうのとはかなりの差があると思いました。

例えば日本に来る前は日本の町には着物を来ている人が結構いると思ったんですけど、それが珍しいことだと知りました。でも一番印象深かったこと、感心したこと、日本のよさが感じられることはサービスの質の高さです。銀行とか郵便局、デパート、商売している店の職員と店員達の親切さから、「お客さんは神様」であることがしみじみ感じられます。お客さんを困らせること、だますことはぜんぜんないばかりか、お客さんの無理な要求もできる限り満足させてくれたりします。いつも笑顔で自分の仕事に責任を持って頑張っている職員、店員様に感謝の気持ちでいっぱいです。これに対して中国ではほとんど情けないように思います。中国では銀行、企業などはほとんど国の物だから、損しても給料はいつも同じだからとお客さんに対しての親切さが足りないんじゃないかと思う。だから、特にこうした点は日本に習うべきだと思っています。

(96年9月入学、中国・遼寧師範大学からの留学生)



直言

先日、ある雑誌の広告を見ていたら、「女子大生興國論」という表題が目にとまり、時代の流れを痛感しました。

東京の某大学の教授が「女子大生亡国論」を発表して話題になったのは、今から三十年代のこと。全国的に女子大生の数が急増している時でした。なぜ国が減るのか、先生の言ひ分はこう。このまま女子学生が増え続ければ、

女子大生興國時代
読売新聞大阪本社編集委員 音田昌子

今に日本の大学は女子学生に占領される。ところが、女子学生は卒業して就職しても、たいてい四、五年で結婚して家庭に入ってしまう。それではせっかく国が投資したお金が社会に還元できず、ひいては国が減るものになると。この発言に、当時大学に在学中だった私たちは大憤慨。そんなことを言わせてなるものか。私たちは結婚しても絶対に仕事をやめないゾと、固く心に誓ったのを覚えています。今の女子大生には、そんな



『ヴァイマル自由主義の悲劇 岐路に立つ国法学者たち』
風行社(8,000円)

古賀 敬太著

大阪国際大学
政経学部 助教授

著者は既に、ヴァイマル期の憲法学者であり政治思想家でもあるカール・シュミットの研究者として有名であるが、その研究と並行して進めてきた同時期の国法学者たちについての研究を一巻に集めたのが本書である。

ソフトボール部率いて27年 全国大会出場4回



「厳しいが信望あつい」杉浦監督

大阪国際大 杉浦 進氏
高等学校教諭

合ってレベルアップにつなげた」と語る。

インターハイ出場は逃したものの昨年夏、大阪ソフトボール協会から大阪選抜チーム「ソフトボール少年少女の部」の監督に選出され、国体出場を目指した。惜しくも近畿予選で敗れたものの初選抜チーム監督に「大役を任せられて荷が重かった。しかし貴重な経験をさせてもらい、これからのチームづくりを生かしたい。」

情熱を圧倒され、指導を全面的に信頼」と部員

大阪府下では強豪で知られる大和田高校ソフトボール部。その監督を務めているのが教師生活34年目を迎えるベテラン、杉浦進教諭。途中6年間を除く27年間にわたって指揮をとり、これまでインターハイ、全国選抜大会に2度ずつ出場、インターハイは2度ともベスト8、また全国選抜大会では初出場ながら3位と数々の輝かしい成績を残

している。残念ながら昨夏のインターハイ予選には決勝リーグまで進みながら惜しくも敗れ、姉妹校の大阪国際滝井高校が初出場。杉浦監督は「同高校はバレーボール部やフエッティング部は全国的に強豪で知られているが、ソフトボール部も刺激されて近年メキメキ力をつけ、インターハイ出場にこぎつけた。お互い競い

合ってレベルアップにつなげた」と語る。インターハイ出場は逃したものの昨年夏、大阪ソフトボール協会から大阪選抜チーム「ソフトボール少年少女の部」の監督に選出され、国体出場を目指した。惜しくも近畿予選で敗れたものの初選抜チーム監督に「大役を任せられて荷が重かった。しかし貴重な経験をさせてもらい、これからのチームづくりを生かしたい。」

に強いチームでも敗れる。勝負は時の運、の側面も。試合では何が起るかわからない」と、勝負のこわさを知り抜いているからこそその自戒のことば。そんな監督を慕って、入部してくる生徒も多い。キャプテンの吉田明美さん(2年生)もその一人で、「正直いってすごく厳しい先生ですが、ソフトボールに賭ける情熱に圧倒され、その指導ぶりを全面的に信頼して、みんなどんな苦しい練習にもたえて頑張っています。」



3大学チームの女子ラクロス部

国際大と女子大・短大が合同で活動している体育会系の女子ラクロス部が、一段とまとまり

3大学(国際大・女子大・短大)合同で活動の女子ラクロス部

登録は国際大チームで、ラクロスは、人気急上昇の球技である。日本へは昭和61年に伝えられた新しいスポーツで、ルールは12人(男子10人、1チーム、スティックでボールを相手ゴールにシュートして競う。平成3年に発足した国際大唯一の女子のクラブだが、女子学生の少なからず部員不足になり、休部寸前になった。そこで女子大・短大に呼びかけて一昨年4月に合同化が認められ、再出発を遂げた。学外で所属している団体、日本ラクロス協会も合同チームでの出場を正式に承認し、昨年よりリーグ戦に参加して熱戦を演じた。ただ女子大・短大の

をみせてきた。ラクロスは、人気急上昇の球技である。日本へは昭和61年に伝えられた新しいスポーツで、ルールは12人(男子10人、1チーム、スティックでボールを相手ゴールにシュートして競う。平成3年に発足した国際大唯一の女子のクラブだが、女子学生の少なからず部員不足になり、休部寸前になった。そこで女子大・短大に呼びかけて一昨年4月に合同化が認められ、再出発を遂げた。学外で所属している団体、日本ラクロス協会も合同チームでの出場を正式に承認し、昨年よりリーグ戦に参加して熱戦を演じた。ただ女子大・短大の



SNUC = 大阪国際女子大・短大健康づくりのためのスポーツ・栄養総合センター

「しっかり食べて骨を丈夫に」

前回までの話でおわかりのように、骨を強くするには運動と栄養が大切であって、若い年代から気をつける必要があります。今回は、「骨と栄養」について考えてみましょう。

成人のカルシウムの所要量は、1日600mgです。カルシウム供給源として代表的な食品は、牛乳・乳製品です。牛乳のカルシウムは、他の食品に比べ吸収が良く手っ取り早くカルシウムがとれます。しかし牛乳のきらいな人もいますので、いろいろな食品を組合せて食べると良いでしょう。

カルシウムの吸収作用には、たんぱく質、ビタミンD、乳糖などの他の栄養素も関係します。「いろいろ栄養素をバランスよくとる」ことが基本となります。1日3食を食べて、太陽の下で元気に運動や散歩をし、骨を丈夫にしましょう。

Caを多く含む食品(カルシウム量)		
普通牛乳 1カップ(200g)	プロセスチーズ 20g	ヨーグルト(全乳) 1杯(100g)
200mg	126mg	130mg
ごま(すり) 1/4杯(50g)	牛乳を「毎日飲む」人は男女共に2人に1人です。	もめん豆腐 1/2T(50g)
232mg		180mg
まいいし(干) 中粒 30g	しばい(40g)	わかめ(乾燥) 2g
420mg	60mg	20mg

奥田政三教育・研究基金奨学生

女子大西オーストラリア大学教育学部第2外国語英語センター派遣留学生
古賀みほ(コミ2)▽伊藤友実▽加藤良子(以上コミ3)▽延廣美紀(人健3)
大和田高オーストラリア、ジローン・グラマースクール派遣留学生
甲斐田留美▽藤野和恵▽南田裕子(以上1)
資格取得者紹介
国際大
第二種情報処理技術者試験合格者



初級システムアドミニストレータ試験合格者
経情3 中西孝行▽松岡一孝▽同4 澤田英樹
女子大・短大
国内旅行業務取扱主任者試験合格者
短大国際1 桜木陽子▽佐々木直子▽中西里江▽奈波京子▽宮口依里▽同2 西村佳奈
T O E C 団体試験(11月16日実施) 93人中400人以上は45人、550人以上は次の通り。
女子大コミ3 浅野都史子▽同4 佐藤菜里子▽短大英語2 大岸亜矢▽真下奈奈子▽崔 康恵▽榎本 薫▽宮地由記▽四方愛子▽小西弘美
第2回英検2級合格者 10人
第27回パソコン検定3級合格者
短大国際2 田中敬子▽東野智子▽矢野智子
日商簿記検定試験3級合格者(11月17日実施)
短大家政1 兜玉佳代▽森下利恵子▽同2 高垣有理▽戸長弥生▽同国際1 大森佳子▽原山明子▽南 昇▽同2 行定みちる
第50回秘書技能検定準1級合格者
女子大コミ3 近藤真紀▽久坂真美
同2級合格者 179人
平成8年度秘書検定優良賞
短大家政1 仲村真澄▽同国際2 藤原幸子
滝井高校
第2回英検2級合格者
3年生 乾 里枝子▽小川恵美▽富永奈美枝▽横山桂子▽米田香奈▽浅見幸枝▽毛之聖子▽高吉和代▽中村敦子▽瀧西妙子
大和田高校
第2回英検2級合格者
2年生 星加理恵▽3年生 園田真理▽久保まゆ▽小川茂都美▽森川八重▽松崎友美▽玉山雅美▽岡野亜矢▽香田知子▽荒西奈那(敬称略)

休部を救った合同化

登録は国際大チームで、ラクロスは、人気急上昇の球技である。日本へは昭和61年に伝えられた新しいスポーツで、ルールは12人(男子10人、1チーム、スティックでボールを相手ゴールにシュートして競う。平成3年に発足した国際大唯一の女子のクラブだが、女子学生の少なからず部員不足になり、休部寸前になった。そこで女子大・短大に呼びかけて一昨年4月に合同化が認められ、再出発を遂げた。学外で所属している団体、日本ラクロス協会も合同チームでの出場を正式に承認し、昨年よりリーグ戦に参加して熱戦を演じた。ただ女子大・短大の

DATA 平成9年度入試結果

Table with columns for exam type (一、二、博), department (経営情報学, 経営経政学), and statistics (志願者数, 受験者数, 合格者数, 競争率).

Table for Osaka International University (大阪国際大学) showing exam results for various departments like 経営情報学 and 経営経政学.

Table for Osaka International University Women's College (大阪国際女子短期大学) showing exam results for departments like 家政科 and 国際文化学科.

Table for Osaka International University Women's College (大阪国際女子短期大学) showing exam results for departments like 家政科 and 国際文化学科.

Table for Osaka International University Women's College (大阪国際女子短期大学) showing exam results for departments like 家政科 and 国際文化学科.

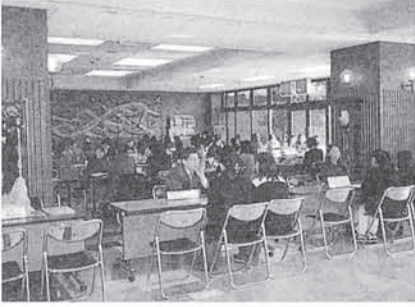
Table for Osaka International University Women's College (大阪国際女子短期大学) showing exam results for departments like 家政科 and 国際文化学科.

Table for Osaka International University Women's College (大阪国際女子短期大学) showing exam results for departments like 家政科 and 国際文化学科.

Table for Osaka International University Women's College (大阪国際女子短期大学) showing exam results for departments like 家政科 and 国際文化学科.

Table for Osaka International University Women's College (大阪国際女子短期大学) showing exam results for departments like 家政科 and 国際文化学科.

企業の説明を熱心に聞く学生ら(1月17日)女子大・短大



今年度就職内定率はまだ発表する時期ではないが、今年1月中旬現在で、昨年同期よりも若干上回っている...

国際大 企業の採用姿勢に変化

今年度は重複内定がかなり目立ち、「どちらに決めたらよいか」とか「どのように辞退すればよいか」といった相談が、例年に比べて多かった...

様変わりか? 就職意識

女子大・短大

年度当初「今年度の就職戦線は、超氷河期といわれた平成7年度より、やや明るさがみえてきた」と、新聞等はしきりに報道しました...

女子大、新設学科で明暗 厳しい現実に直面の短大

一般入試をふりかえって

平成9年2月3日から2月6日にかけて、大学、短期大学の一般入選考試験が行われた。大

率で増えたものの、10月以降は停滞し微増にとどまったことでは思えない。むしろ「飛び出した企業さ

まさに冬の時代到来

中学・小学校の児童・生徒数の激減、低成長化のもと公立指

りによる進路指導によって進学の学校が格付けされており、同ランクの私学女子高同士のサ

専願者獲得難しくなった私学女子高 大和中学校

3学級90名の募集を目標に地道な募集活動を重ねた結果、1次入試69名、2次入試32名、計

【大和中学校】 3学級90名の募集を目標に地道な募集活動を重ねた結果、1次入試69名、2次入試32名、計

象がみられます。就職難をまのあたりにして、従来あった就職への「こだわり」意識が次第に

科では、定員枠(一般一期110名)をわずかに上回る結果になり、スポーツ行動学科は定員

【大和高校】 昨年270名の募集定員のところ341名の新生が確保できた。これは英数コースを中心とした本校の教育活動と実績が

女子大、短大が初の保護者懇談会開く

女子大・短大の「保護者懇談会」が12月14日、本学キャンパスで開催されて約1300人の保

れた大学づくりを目指す一環。内容は▽キャンパス公開▽教育懇談会▽懇親会。キャンパス公開ではインターネットを体験



混沌の世に送り出すに当って

大阪国際大学 川又良也学長

本来ならば諸君の門出を祝福して、これからの社会の在り方につき明確な見取図を示し、生き方に資する助言を述べざるべきものと思う。しかし、今の世はかつての価値基準を根本的に見直し、政治的、経済的、社会的制度の改革の必要性が主張され、現実的に極めて混沌とした時代であり、遺憾ながら諸君の進むべき道は平坦ではない。そのような道に諸君を旅立たせることに憂慮の思いを禁じえないとともに、良き助言を与え

得ないことに忤ねたるものがある。19世紀末、市民社会の価値体系が衰弱して、退廃的、懐疑的、冷笑的な思潮が広がった。その頃を指してフランスの小説家プルーストは、世紀末と呼んだ。20世紀の終末を迎え、いままた世紀

不安の念を抱かせる一因となつてゐる。百年前に比べわれれば、一見して幸せな生活を送つてゐるように見えるが、その生活は化石燃料を基にしたエネルギーによつて支えられ、その結果がいろいろな形で生態系に悪影響を及ぼし、環境を破壊している。したがつてこうした経済活動の在り方、制度そのものを基本的に変革する必要があるといわれる。

末現象がいわれるほど社会は混沌とし、これを良き方向へ立て直す有効な手段が見当たらない。1977年、ロシアに社会主義国家が誕生したけれども、70年の歴史をたどつただけで破局に終つた。その歴史で得られたフランスよりも失つたドイツの方が多しといわざるを得ない。ポスト冷戦の時代になり、東西の対立こそなくなつたが、南北の格差は広がる一方で、西側諸国のなかにも格差がある。また、科学技術の発達もわれわれの将来に対する

卒業おめでとう(学長あいさつ)



「女性の時代」故の心構えとは

大阪国際女子大・短大 三木正伸学長

4年間にわたり本学では、GLOBAL MINDの教育方針のもと専門性の付与や広く人間形成に係わる教育を行い、実社会で即戦力として活躍される能力を身に付けられたと信じる。ただ、就職状況は思わしくなく、とりわけ女子学生には厳しい。単に構造不況だけでなく、企業の「女性の受入れ」が消極的であることも一因。

最近体験した外国人女性の例をあげ、参考に供したい。アメリカ人の彼女は、オーストラリアの大学の英語教育部長。英語を学ぶ諸外国の学生の教育プログラムの作成やホームステイの世話など多忙時には、睡眠時間3、4時間とのこと。1年前に10才の子供とロシア人の御主人と離れてこの大学に赴任し、5年間位はアメリカに居れそうにない。「家族と離れ、たいへんですね」とたずねると「勿論、家族と離れて

就職活動の奮戦ぶりを小説化(国際大卒業生)

ユーモアとペーソスに描き話題呼ぶ



24年ぶりの就職協定廃止で、はやくも就職戦線の様変わりがいわれるなか、今春大阪国際大学(経営情報学部)を卒業した北野見市さん(写真)が自らの8カ月に及ぶ就職活動の奮闘ぶりを小説化、「1学生が企業と出会うとき」(B5判37頁)の冊子として出版。一流流大学生の就職物語と副題にあるように、伝統校の学生でない主人公が厳しい現実に直面して何度も挫折しそうになりながら、強い信念で克服したさまが、ユーモアとペーソスを織り混ぜた軽妙なタッチで綴られ、学内で話題を呼ぶとともに就職室では「後輩に向けて生々しいメッセージ」と早速就職指導に生かすことになっている。

後輩向け生々しいメッセージ

小説では、主人公・木田が友人に刺激されて3年次生の11月から就職活動を開始し、翌年7月に決定するまでのことを、友人とのやりとりを中心に展開して12章にまとめた。企業名などは仮名にし、状況は部組み替えてあるものの内容は、実体験に基づいて記され、主人公は北野さんの分身。主人公は北野さんの分身。企業の対応ぶりや主人公の気持ちの移り変わりがリアルに読者に伝わってくるほか、主人公の自己分析も冷静でなかなか鋭い。



「会社の数は星の数ほどある」と木田が言ったら、「星の数ほど学生はいる」とハルが言った。「なら一番星になろう」と思った木田であった――など全体に快いテンポは、実際の就職活動中に

友人とやりとりした電子メールをもとに小説化したため。東京出身ということもあり、結局東京の会社に決めた北野さんはあながち「自分で流れを作るような人生を送りたい」との信念から、「挫折せずに」並みの学生以上に頑張った。(就職活動は)自分との戦いになるだろうと思うが、実社会における勝負の始まりだから、引かずと攻め続けて欲しい」と後輩にアドバイス。発行元は、北野さんが卒業した勉強サークル・相葉塾。相葉塾の教授は「学生の奮起を促すとともに、教職員が一体となつて層彼

らを支援して欲しい」という呼びかけの意味で冊子にして配布。また、就職室では、厳しさを実感していない現3年次生もいることから、急ぎで増刷してガイダンスで配布した。

「FMひらかた」開局

枚方市域を対象にしたコミュニティFM放送「エフエムひらかた」が1月15日に開局した。「エフエムひらかた」は昨年6月に会社設立、コミュニティFM放送局として府内で4番目にも出資して事業に参画している。周波数は77.9MHz。本学園も出資して参画している。FMひらかたが開局したことに、大阪国際大の情報発信に期待がかかる。

盛況だった人間フォーラム

今後も継続予定

大阪国際女子大学・短期大学と読売新聞社が共催して昨年12月20日、よみうり人間フォーラム「男女・競存」の時代」一向かい風を追い風に大阪市中央区MIDシアターで開催。平成9年春からの開設に向けて申請していた女子大の新学科▽国際コミュニケーション学科▽スポーツ行動学科が前日の19日に認可されたのを契機に、本学の教育の姿勢を広く社会に訴えるフォーラムで、好評だったことから、今後同フォーラムを定期的に開く予定。

「男女“競存”の時代」(女子大・短大)



▲ 忌憚のない意見が飛び交った初のフォーラム

2学科の新設で女子大人間科

「男女がそれぞれの優位性を発揮する男女共生社会の到来を見据え、自ら新しい分野を開拓

できる真に自立した人材の育成」を展開できる態勢が整った。このことを社会にアピールする意味で、

本紙に記載の学年、肩書き等は全て'96年度のもので、ご了承ください。

読売新聞社の協力を得て初めて催した。聴衆約400人。まずはじめにアグネス・チャンさんの特別講演。歌手としてデビューしたあと日本、カナダの大学を卒業し、アメリカの大学で教育学博士号を取り、講演や執筆活動など知性派タレントで知られるアグネスさんは、男女問題を考えさせられた4つの自らの体験談をもとに「男女問題は国際化と同様に、共に生きる」ことが原点。男女が互いに理解し合うことが大切だ」と強調した。アグネスさんの熱い訴えに、会場は大いに盛りあがった。次いでパネリストカッシーン。パネリストは三木正伸女子大・短大学長のほか▽株式会社アダム代表取締役社長・中田幸子さん▽NHK大阪放送局チーフディレクター(当時)・瀬地山清子さんにアグネスさんも加わり、コ